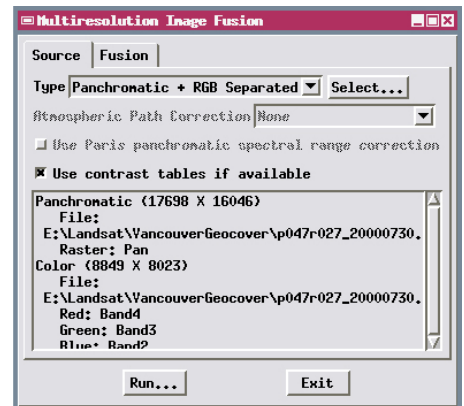


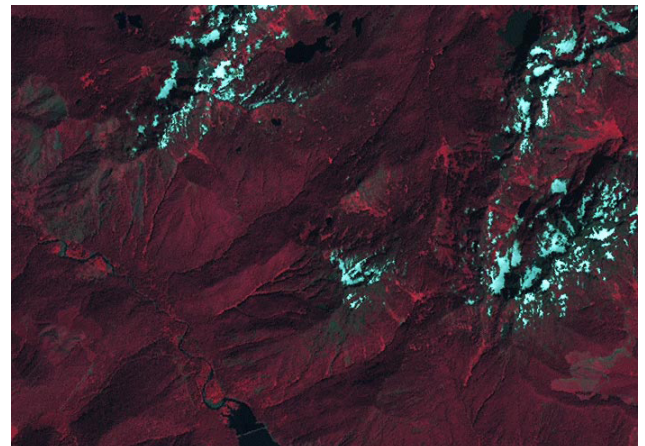
コントラストテーブルを使った画像の融合

TNTmipsの多重解像度画像の融合処理（[ラスタ] > [組み合わせ] > [多重解像度画像の融合]）では、グレースケール画像に対して事前に保存したコントラストテーブルを使って、自動でコントラスト強調したパンシャープ処理が可能です。融合処理ではこのように表示処理でユーザがソースラスターオブジェクトに対して設定したリニア、正規化、指数、対数およびユーザ定義などのコントラスト設定を適用することができます。

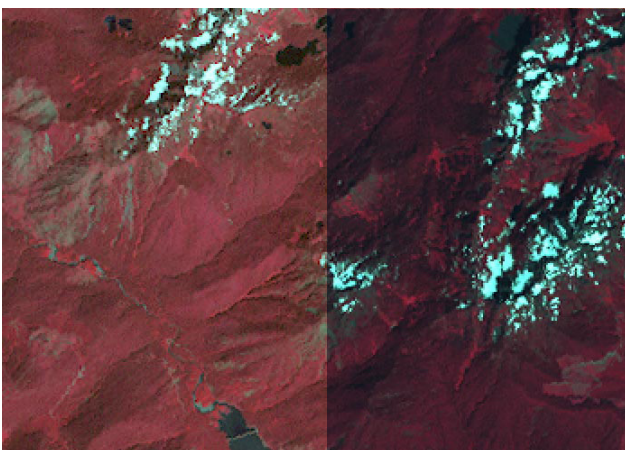
[ソース] タブパネルの [コントラストテーブルがあれば使う] トグルにチェックを入れると、ソースのパンクロ画像や個別のRGB マルチスペクトルバンドラスターに対して、ユーザが一番最後に使ったコントラストテーブルを使って処理が行われます。このオプションは、ソースとして [パンクロ+RGB 分離] または [不特定] を選んだ時に最も便利です。というのは、クイックボードやアイコンには特別な較正処理が適用されていて、生の画像値から直接画像融合処理を行う場合に良好なカラーバランスや明るさ、コントラストが可能だからです。コントラスト強調の使用は、ランドサット7やSPOT画像をパンシャープニング処理する場合や異なるセンサーからのパンクロ画像とマルチスペクトル画像を融合する場合にメリットがあります。[融合] パネルのパンクロコントラスト強調オプションを使うと、保存したコントラストテーブルを使用してコントラスト強調する以外に、マニュアルでも強調することができます。



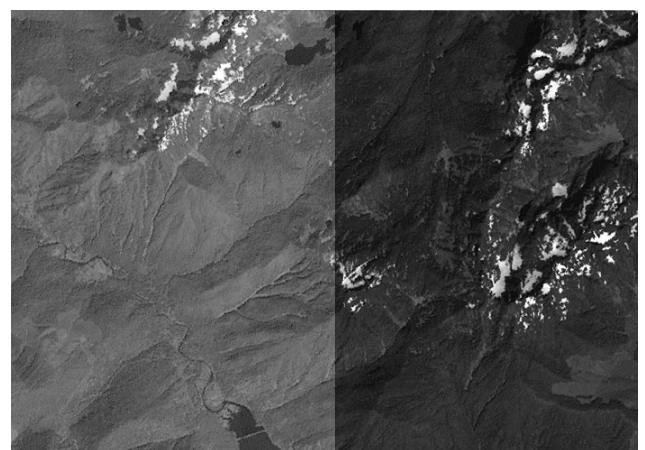
ランドサット7画像データからカラー融合した結果。カラーとパンクロバンドに対して指数型のコントラストテーブルを使用。



同じランドサット7画像データからのカラー融合結果で、パンクロバンドに対してコントラストテーブルやマニュアルでのコントラスト強調をしていない。



ランドサット7カラーバンド (4, 3, 2, = R, G, B)。左の図は指数型のコントラストを適用、右の図はコントラスト強調していない。



ランドサット7パンクロバンド。左の図は指数型のコントラストを適用、右の図はコントラスト強調していない。